

令和6年度第2期瑞穂町子ども・子育て支援事業計画に対する委員からの質問事項

■計画の体系■

No.	頁	施策名	質問	回答	担当部署
1	1	子ども家庭支援センター機能の充実	課題として「その他の周知方法の調査研究が必要」とありましたが、何か考えていることはありますか。	町では広報などのほかに、ホームページや「子育てナビわくわくみずほ」などのデジタル媒体で子育て支援情報の提供を行っています。これら媒体の活用を進めたいと考えています。また、技術革新等により、今後新たに活用できる周知方法が出てくる可能性もあるため、アンテナを高くして調査研究に努めていきます。	子ども家庭センター課
2	1	子育て相談の充実	要保護児童の数は増えているのでしょうか。	町の子どもの数は減少傾向にありますが、要保護児童の数は、概ね増加傾向にあります。住民や関係機関の児童虐待に対する理解が深まり、適切に通告が入るようになったことや、国・都などの取組により、子どもの面前で夫婦喧嘩などがあつた際、警察から通告が入る仕組みが整えられたことなど、様々な要因が考えられます。	子ども家庭センター課
3	11	妊産婦への支援	「ゆりかごステーションに母子保健コーディネーターに加え、母子保健ワーカーを任用した」とありましたが、コーディネーターとワーカーの仕事内容は違うのですか。	母子保健コーディネーターは、子育て世代包括支援センターに配置する助産師又は保健師の資格を有する保健系専門職で、妊娠届出時から出産後数か月頃までを中心に妊産婦やその支援者の相談に寄り添いながら対応し、支援サービスの斡旋や関係機関（産科病院等）との調整業務を担当しています。一方、母子保健ワーカーは、国の制度上、困難事例対応職員という位置付けの社会福祉士や精神保健福祉士の資格を例示された福祉系専門職で、SNS等を活用した相談支援や多職種によるアウトリーチ支援の実施、関係機関や嘱託医師との連携による対応強化等が主な役割として挙げられています。この職については、令和7年度までに子育て世代包括支援センターへの配置を義務付けられていますが、町では、外国人やひとり親家庭等、比較的、福祉的な支援を要する割合の高い家庭を担当することを想定し、令和6年10月に配置を開始しました。母子保健ワーカーについては、制度に位置付けられてからの歴史も浅く、他の自治体でも、具体的な活用方法が確立されていない状況です。町でも母子保健事業等、様々な場面での活動を通して経験を積み重ねてもらい、具体的な支援方法や多職種連携の形を確立していきたいと考えています。	子ども家庭センター課
4	18	人権教育の充実	昨年度は三小で全学年、四小、五小で人権教室を行いました。今年度も三小では全学年に行います。また、一小、五小でも行う予定です。	ご意見として受け止め、担当部署と共有します。	協働推進課
5	23	児童館運営の充実	夏休み中のコミュニティセンターでの移動児童館の利用状況はどうだったのでしょうか。長岡コミュニティセンターでは非常に少なかったように思われます。	長岡コミュニティセンター R5年7.21～8.24 28日間 234人 平均8.3人 R6年7.22～8.24 27日間 158人 平均5.8人 武蔵野コミュニティセンター R5年7.21～8.24 28日間 489人 平均17.4人 R6年7.22～8.24 27日間 648人 平均24人 元狭山コミュニティセンター R5年7.21～8.24 28日間 193人 平均6.8人 R6年7.22～8.24 27日間 282人 平均10.4人 自宅以外の安心できる居場所として、今後も移動児童館の役目を果たしていく必要があると考えます。	子育て応援課
6	23	中学生・高校生への支援	令和5年度も6年度も同じ目標で、進捗状況も「時折、学校や塾の宿題を行う児童・生徒が見受けられる」とありますが、時折とはどの程度なのでしょうか。	児童館のおたより（主催事業のお知らせ）を町内の小・中学校へ掲示依頼し、児童館の利用を呼び掛けています。学校で遊ぶ約束をしてから、児童館に来る子も見受けられます。しかし、児童館では遊びが主となるようなので、宿題や勉強をしようとする子は少ないようです。	子育て応援課
7	24	「放課後子ども教室」の充実	以前は学校によって開催回数が違っていましたが、今は全ての学校で回数が増えて素晴らしいと思います。子どもたちは体験学習がとても好きだと思うので大変ですが、頑張ってください。	ご意見として受け止め、担当部署と共有します。	社会教育課

令和6年度第2期瑞穂町子ども・子育て支援事業計画に対する委員からの質問事項

■量の見込みと確保方策（計画の基本的事項）■

No.	頁	項目	質問	回答	担当部署
1	1	幼児期の教育・保育 (1号認定)	「認定こども園から認可保育所に移行した」とありましたが、町として認定こども園を増やしていく方向は変わってないのですか。	今回認可保育所に移行したのは、幼稚園部分の在籍児童数が0人となる見込みであり、幼稚園部分への職員配置の負担も大きいからです。 町として認定こども園に移行していく方向は変わらず、現在如意輪幼稚園が幼保連携型認定こども園に移行する手続きを行っています。	子育て応援課